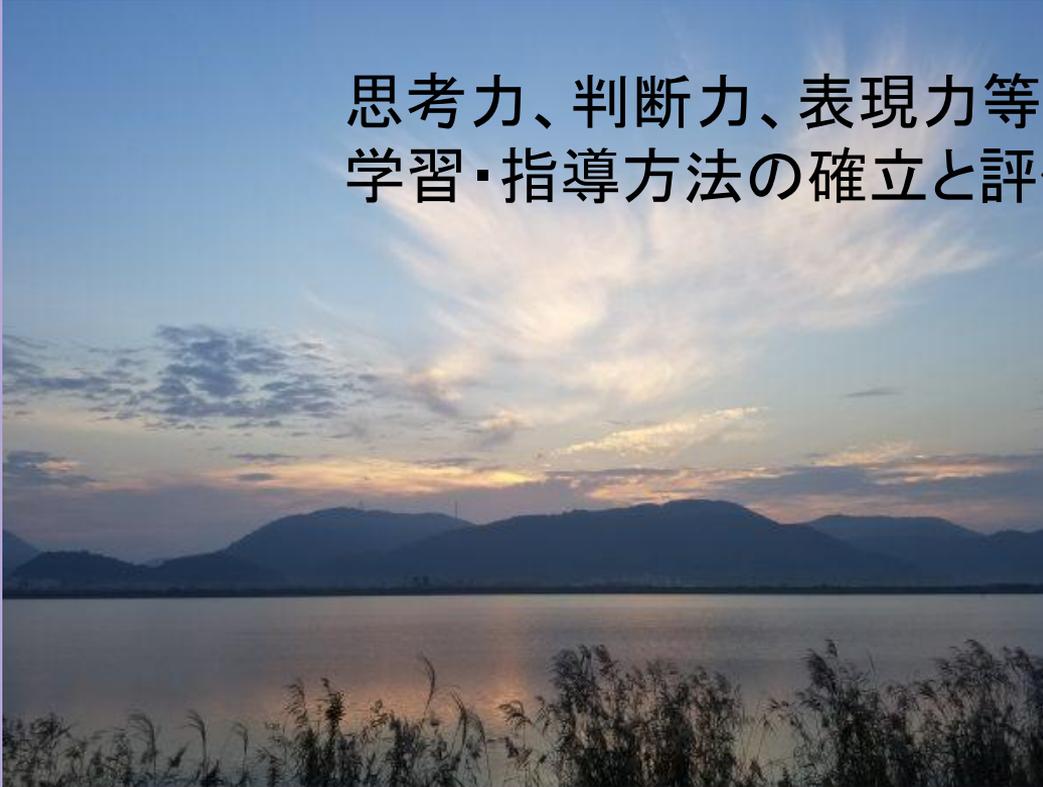


岡山県立玉野光南高等学校 研究発表

思考力、判断力、表現力等の育成を目指す
学習・指導方法の確立と評価方法の工夫改善



令和2年度～3年度
国立教育政策研究所
教育課程研究センター
教育課程研究指定校事業
(保健体育)

【研究主題】 思考力、判断力、表現力等を育成するための指導方法の確立と評価方法の工夫改善

<学習指導要領改訂の方向性>

新しい時代に必要となる資質・能力の育成と、学習評価の充実

学びを人生や社会に生かそうとする
学びに向かう力、人間性等の涵養

生きて働く
知識及び技能の習得

未知の状況にも対応できる
思考力、判断力、表現力等の育成

三つの資質・能力を
バランス良く指導

【仮説】

- 学習のねらいを明確にし、指導と評価を工夫することで、思考力・判断力・表現力の向上が図られる

①学習のねらいの明確化

【体育】

- ・一人一人の違いを大切に「共生」の視点を踏まえた指導

【保健】

- ・単元ごとに工夫したアウトプットの場面設定

②「指導と評価の計画」の工夫

学習活動(言語活動)の質の向上

体育: ディスカッション、プレゼンテーション 等
保健: ディスカッション、ブレインストーミング、
ロールプレイ 等

課題発見

課題解決

指導と評価の一体化

評価方法の工夫改善

学習カードの工夫
(自己評価・相互評価)

評価場面の適正化
(評価補助簿の活用)

2030を過ごす高校生は？



岡山県立玉野光南高等学校 教育目標

“AGENCY”

自ら考え、主体的に行動して、責任をもって社会変革を実現していく力

今回の目標達成後のイメージ

生徒が体育を好きになる授業を実現する

三つの資質・能力に加え、体育で身につけたい力

・情報把握力

必要な情報を収集し内容や要点を把握して活用する力

・プロセス管理力

成果を出すために流れを作ったり修正する力

・プレゼンテーション能力

自分の考えを伝え、相手に興味関心をもたせ、行動を引き出す力

・組織活性化能力

目標達成に向けて集団をまとめ、仲間が主体的に活動する雰囲気を作る力

1年目の取り組み

- ・1年次生から5クラス200人・8種目の選択制授業(3期)
- ・男女共習の実施
- ・表現力と共生の視点を意識した授業実践
- ・授業終わりのプレゼンテーションの実施
- ・集計ソフトを活用した学習カードの工夫
- ・単元ごとのアンケート集計
- ・研究推進委員会の開催(年2回)

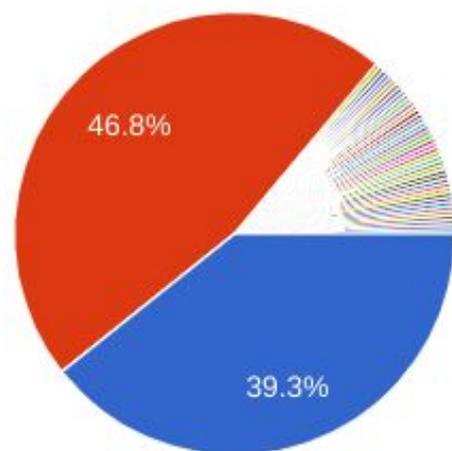
1年目の障壁と収穫

- ・緊急事態宣言に伴う休校措置(4月～5月末)
- ・学校再開後の活動制限
- ・生徒の心身のコンディション

- ・打ち合わせの質と量の増大
- ・研究成果の共有
- ・教員の一体感

中学校時の「体育」の授業形態について

295 件の回答



- 男女分けずに合同で授業
- 男女別々に授業
- 男女合同、種目選択、男女別授業3種...
- 1、2年生のときは一緒に3年生は選択...
- 1、2年生は一緒に3年生は選択授業が...
- 合同の時と別々の時があった
- 不定期でどちらもしていた
- 種目によって変わりました。球技とか...

入学時 体育イメージ

低い ルール 出来る 知る 軽い
 チーム 色々 能力 体力 怖い
 難しい 成長 できる 養う 集団行動 詳しい 知識
 強い 絆 楽しめる 身体能力 イメージ 様々 向上 しんどい
 苦しい 動く 健康 必要 勉強
 なるる 運動不足 身体 解消 動かす 授業 学ぶ 走る つける
 だるい 深まる 学べる 動かせる 運動 スポーツ 楽しさ
 いい 鍛える 思う 厳しい 皆 教科 種目 取り組む いろいろ 暑い
 好き 楽しい 1番 楽しむ
 たのしい ストレス 深める 体育 協力 正しい 辛い
 はやい 面白い いく 競技 多い 寒い
 上げる 恥ずかしい

1年目の成果

「表現力・共生」

- ・授業終わりのプレゼンテーションと相互評価の場面で、授業ゴールに向けての合意形成を意識した活動が多く見られるようになった。
- ・次の単元の種目に変わったときに、共同作業がスムーズに展開されるまでの時間が短くなり、授業課題への取り組みが具体化された。
- ・学習カードの集計アプリの活用から、授業改善のポイントを整理できた。

2年目の研究について

(1)研究のポイント

「体育」

- ・生徒主体の活動を増やす中で、表現力と共生を意識した活動
- ・プレゼンテーションの発表項目を表現力と共生に焦点を絞る
- ・ホワイトボードを利用した合意形成の見える化
- ・学習カードからの授業改善アプローチ

(2) 研究の実践

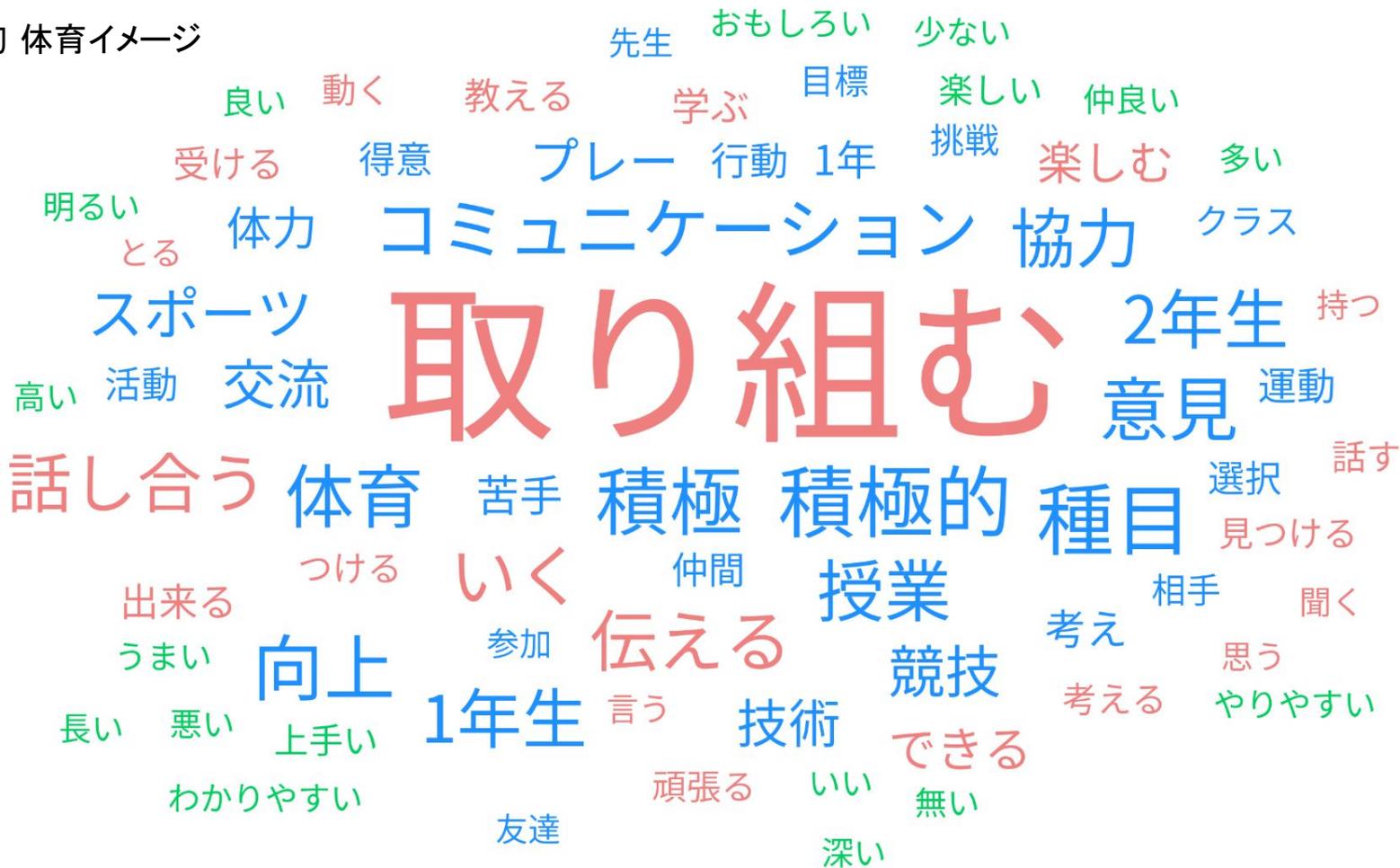
- ・授業ゴールの明確化と意識づけ**
- ・プレゼンテーションの実践で表現力と共生の意識づけ**
- ・学習カードの集計アプリ活用と授業改善の実施**
- ・活動時間の確保**
- ・教えすぎない**
- ・選択種目12種目**

別紙 指導と評価の計画

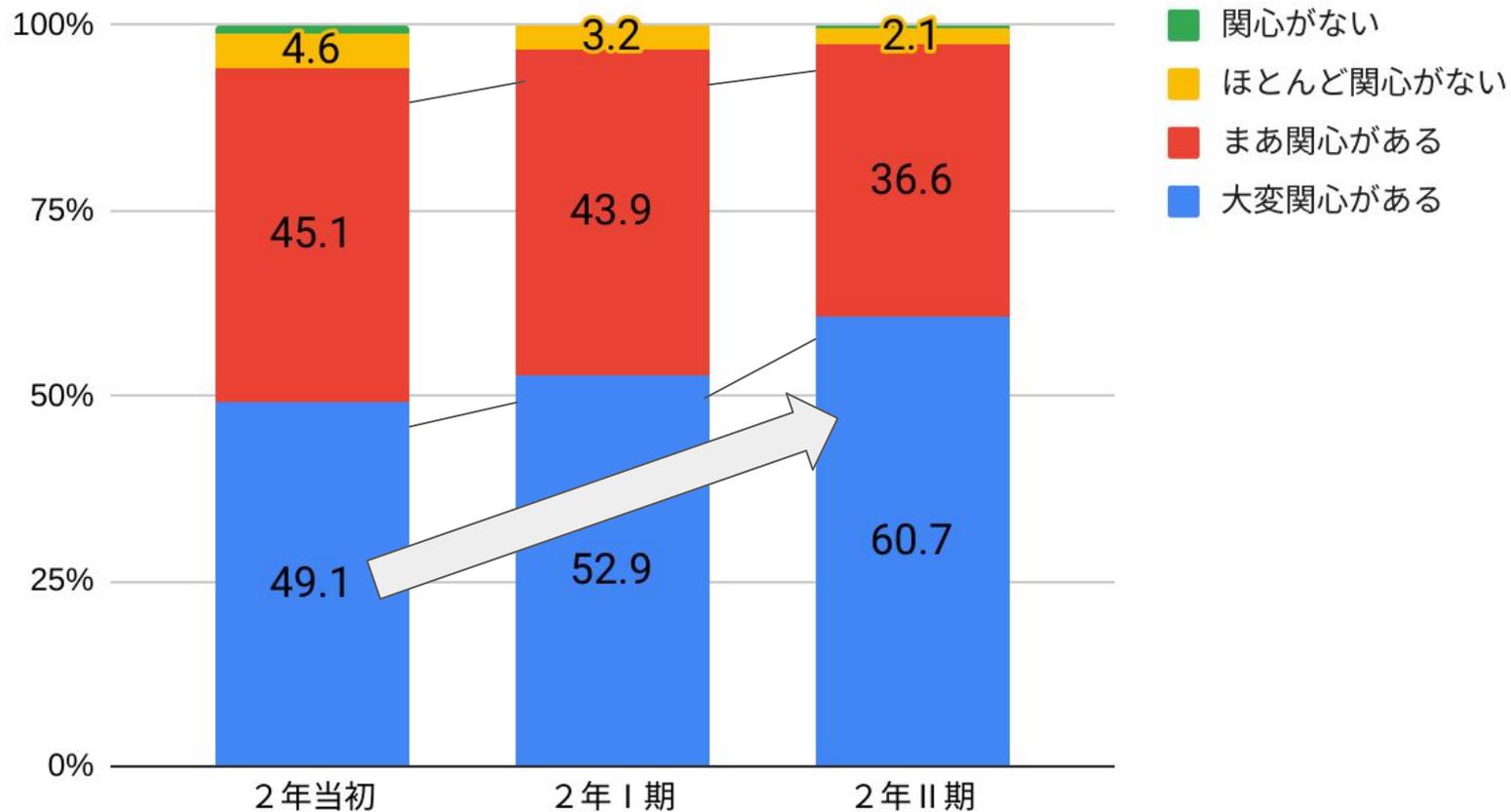
単元の目標	知識及び技能	バスケットボールについて、勝敗を競ったりチームや自己の課題を解決したりするなどの多様な楽しさや喜びを味わい、技術などの名称や行い方、(体力の高め方、)(課題解決の方法)、競技会の仕方などを理解するとともに、作戦や状況に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開することができるようにする。 状況に応じたボール操作と空間を埋めるなどの動きによって空間への侵入などから攻防をすることができるようにする。														
	思考力、判断力、表現力等	生涯にわたって運動を豊かに継続するためのチームや自己の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて取り組みを工夫するとともに、自己やチームの考えたことを他者に伝えることができるようにする。														
	学びに向かう力、人間性等	球技に主体的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとする事、合意形成に貢献しようとする事、(一人一人の違いに応じたプレイを大切にしようとする事、)(互いに助け合い高め合おうとする事などや、)(健康・安全を確保すること)ができるようにする。														
	時	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	授業づくりのポイント
学習の流れ	0	健康観察・本時のねらいの確認・準備運動														<ul style="list-style-type: none"> ・三つの資質・能力の内容をバランス良く指導する。 ・動きの獲得を通して知識の大切さを一層実感できるようにする。 ・汎用性のある知識を精選した上で、知識の学習を基盤とした学習の充実を図る。 ・練習やゲームでは、即時にアドバイスをしあうことができるようにし、学習の振り返りで質を高めていく。 ・仲間への助言や安全に留意する意義などの理解と具体的な取り組み方を結びつけ指導する。
	10	オリエンテーション	コーディネーショントレーニング	小テスト	コーディネーショントレーニング	小テスト	コーディネーショントレーニング	小テスト	コーディネーショントレーニング	小テスト	コーディネーショントレーニング	小テスト	コーディネーショントレーニング	小テスト	コーディネーショントレーニング	
20		試合の始め方	3秒ルールを活用したゲームと審判法	8秒ルールを活用したゲームと審判法	バックパスルールを活用したゲームと審判法	課題ゲームと審判法の実践										
30		バスの4方向														
40		ボール慣れ														
45																
		整理運動・学習の振り返り・次時の確認														

評価機会		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	評価方法	
	知識				①							②				総合的な評価	小テスト・学習カード・観察
	技能			①					②								観察
	思・判・表						①			②							観察・学習カード
	態度					②		③					④		①		観察
単元の評価規準	知識	<p>①局面ごとに技術や戦術、作戦の名称があり、それぞれの技術、戦術、作戦には、攻防の向上につながる重要な動きのポイントや安全で合理的、計画的な練習の方法があることについて、学習した具体例を挙げている。</p> <p>②競技会で、ゲームのルール、運営の仕方や役割に応じた行動の仕方、全員が楽しむためのルール等の調整の仕方などがあることについて、学習した具体例を挙げている。</p>															
	技能	<p>①味方が作り出した空間にパスを送ることができる。</p> <p>②シュートをしたり、パスを受けたりするために味方が作り出した空間に移動することができる。</p>															
	思・判・表	<p>①チームでの話し合いの場面で、合意を形成するための調整の仕方を見付けている。</p> <p>②体力や技能の程度、性別等の違いを超えて、仲間とともに球技を楽しむための調整の仕方を見つけている。</p>															
	態度	<p>①球技の学習に主体的に取り組もうとしている。</p> <p>②フェアなプレイを大切にしようとしている。</p> <p>③作戦を話し合う場面で、合意形成に貢献しようとしている。</p> <p>④一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとしている。</p>															

2年最初 体育イメージ



2年次 体育授業への関心度





パスコースの作り方

線を引く
日向
岡山三大河川
4M~5M
たて・横・斜め・後ろ

8秒ルールの活用

12分割
ブラインドサッカー
バックパスルールの活用
鬼ごっこ
パスでハーフを越える

復習

3秒ルールの活用

6分割
人がいないところ
人がなくなったところ
パス&ラン



自分たちで考えたもの



プレゼンテーション

評議	4 意見 (共生・課題)	合計	発表者が 学んだこと	発表を聞いて評価者が思ったこと。
2・1	⑤・4・3・2・1	20	目標に対して みんなが改善できた	みんなが話して、改善して、 音も聞こえることができてた。
2・1	⑤・4・3・2・1	20	2番に人が集って 話をたかづねられた	自分もよく2番に行けたので うつく
2・1	⑤・4・3・2・1	20	空いた所にパスと まわりの声の強弱	アドバンスをいれてきた ので、それを意識して練習した。
2・1	⑤・4・3・2・1	20	いつもよりパスを のパスをいれた	ボールにボールを向うに 重ねていってよかったです。
2・1	⑤・4・3・2・1	20	ななめとパスの 音に気づいた	空いた所に重ねて いってよかったです。
2・1	⑤・4・3・2・1	20	ボールが止まる時は パスをもらうには	自分から動かしている所には パスが通りにくいので、パスをもらう
2・1	⑤・4・3・2・1	20	受け取る人の動きが 大事。チームの課題	チームの課題をわかっていって いかなので、練習の仕方を変えて
2・1	⑤・4・3・2・1	20	速攻が得意で リバウンドとパスが	シュートを4回に動かしている人が 少ないので、国が動かすように
2・1	⑤・4・3・2・1	20	コートに入ると 入って来るとモフ	リバウンドとまわりの声の強弱 シュートして、相手のボールに気づく
2・1	⑤・4・3・2・1	20	パスが通ると から、同じ見える	同じ位置に人がいることと、 パスを動かすようにする。
2・1	⑤・4・3・2・1			

4 意見 (共生・課題)	合計	発表者が 学んだこと	発表を聞いて評価者が思ったこと。
⑤・4・3・2・1	20	目標についてみんなが 話して改善できた	みんなが話して言うことが 大切だと感じた。
⑤・4・3・2・1	20	パスを狙いすぎて ミスに繋がった	パスをもらう人、受け取る人、 音を出すことが大事。
⑤・4・3・2・1	20	味方とかぶる時が 見てから動くよくなる	味方から周りを見ながら 動くことが大切。
⑤・4・3・2・1	20	たて方向にパス コースを作る	横パスは取られやすいから、 つりやなためにパスコースを作っていく。
⑤・4・3・2・1	20	ゲームになるとあせると いい声に聞こえない	日向に周りの人が 動いてあげたらいい。
⑤・4・3・2・1	20	ざわついたパスに 声が出ない	パスを出す時、モウウ時に 声を出したらいいと思った。
⑤・4・3・2・1	20	ハーフコートを超えた 後のパス、シュートが	ハーフの超え方とその後 のプレーが変わってくる。
⑤・4・3・2・1	20	パス回しが良くなると シュートにつながる	味方がシュートしやすいパスに パスを出してあげようと思う。
⑤・4・3・2・1	20	味方がシュートを 打ちやすい所にパスを	味方の動きをパスする人の考えが 合っていないとミスになるので
⑤・4・3・2・1	20	パスをもらう所に みんな動かして	味方がみんなに動かせば パスミスも減ると思う。

2年 I 期
バスケットボール

限る 学ぶ 得意 出来る 楽しい 悔しい
2年生 近づける コミュニケーション能力 活動 進める
面白い 攻める 一個 生かせる 手本 バスケット 切磋琢磨
達成 思う プレー 生かせる 手本 バスケット 切磋琢磨
比べる 授業 バスケットボール
選択 上手い レイアップ 良い 競い合う 男女
経験 多い 1年生 長所 体育 最後の授業 仲間 組む
凄い レベル 試合 入りやすい 学べる できる チーム 考える
嬉しい 試合 入りやすい 学べる できる 違う
聞く 取る 混合 反省会 高い 生かす 嫌う
意識

2年Ⅱ期
バスケットボール

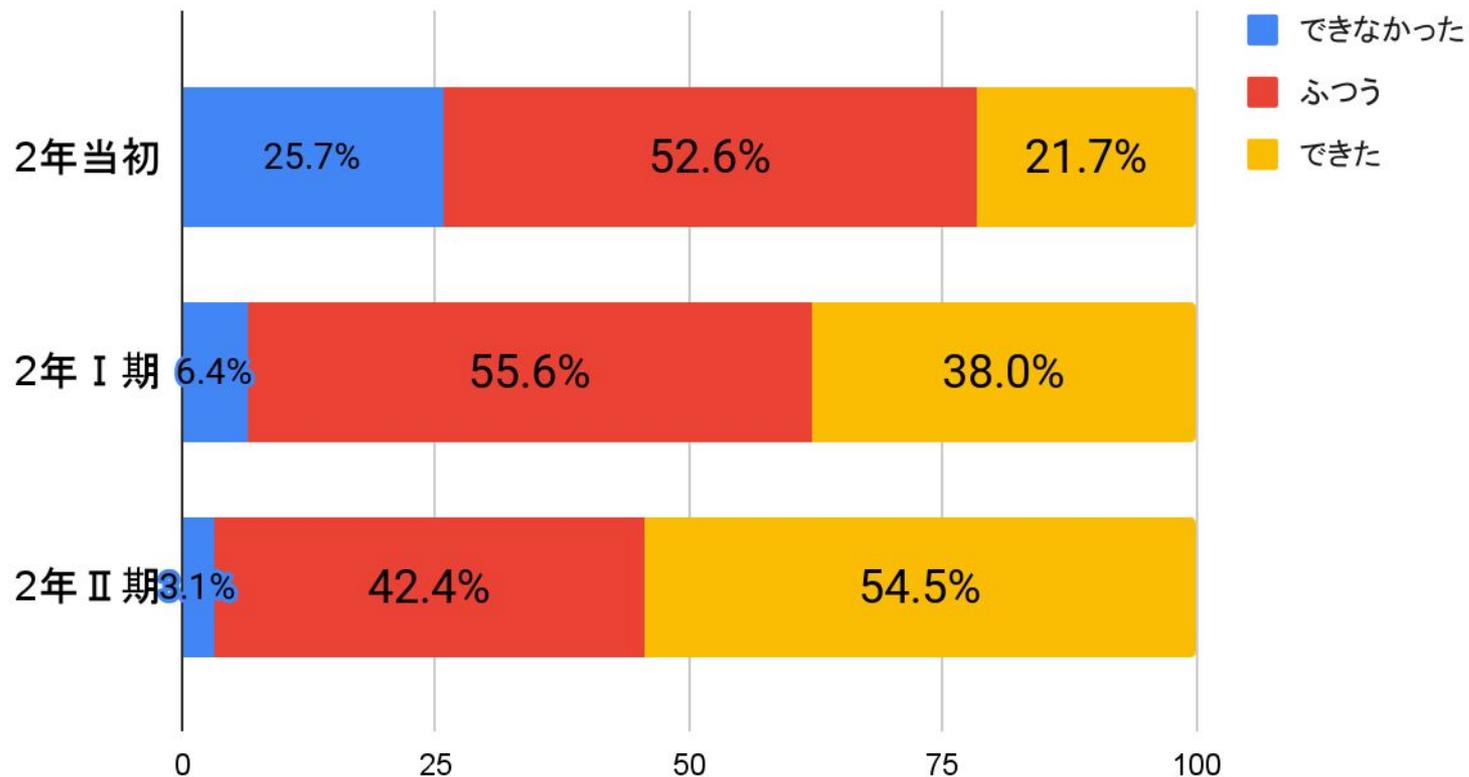
楽しい 考え たのしい やりやすい 思う
 話せる 待ち遠しい 授業 シュート バスケットボール 出来る
 良い チーム 繋げやすい 試合 共生 バスケ部 比べる
 全員 話し合い 話し合える
 意識 最後の授業 良い試合 目標 前回 経験
 1年生 団結力 仲間 共栄 高まる 最初
 できる 自他 プレー 取り組める 精神面 立てる
 決める 先生 技能 毎週
 いく 打ち解ける みつけだす 入る 少ない
 よい スリーポイントシュート 数多い 学ぶ 嬉しい
 楽しむ 重ねる 広がる 学び 話す 話し合う 多い ありがとう

共生について実現状況を判断する目安

実現状況	行動の仕方のキーワード	想定される様相
十分満足できる状況 (A)	建設的に考えようとしている	・ミスしたときやうまくできなかった時に、一人一人の違いを踏まえて自己や他者への建設的な発言や働きかけがみられる。
	気遣おうとしている	・共生の意義及び自身の行動の仕方に対しての具体的な記述が確認され、体力や技能の程度、性別などに関わらず気遣いがみられる。
おおむね満足できる (B)	知識を規範に行動しようとする	・実現可能な課題の設定や挑戦を大切にしようとする大切さを理解し、他者との違いを受け入れている様子が確認できる
	受け入れようとする	・仕方なくという場面も見られるが、理解したことを基に互いのプレイに違いを受け入れている。
努力を要する (C)	逃避しようとする	・他者の立場や状況への配慮がなく、自己のプレイに固執し修正したルールを無視しようとする様子が見られる。
	敬遠しようとする	・一人一人の違いが生じている状況でも、関わりを遠ざけたり、あきらめたりするなど消極的な姿勢が教師の働きかけの後もみられる。

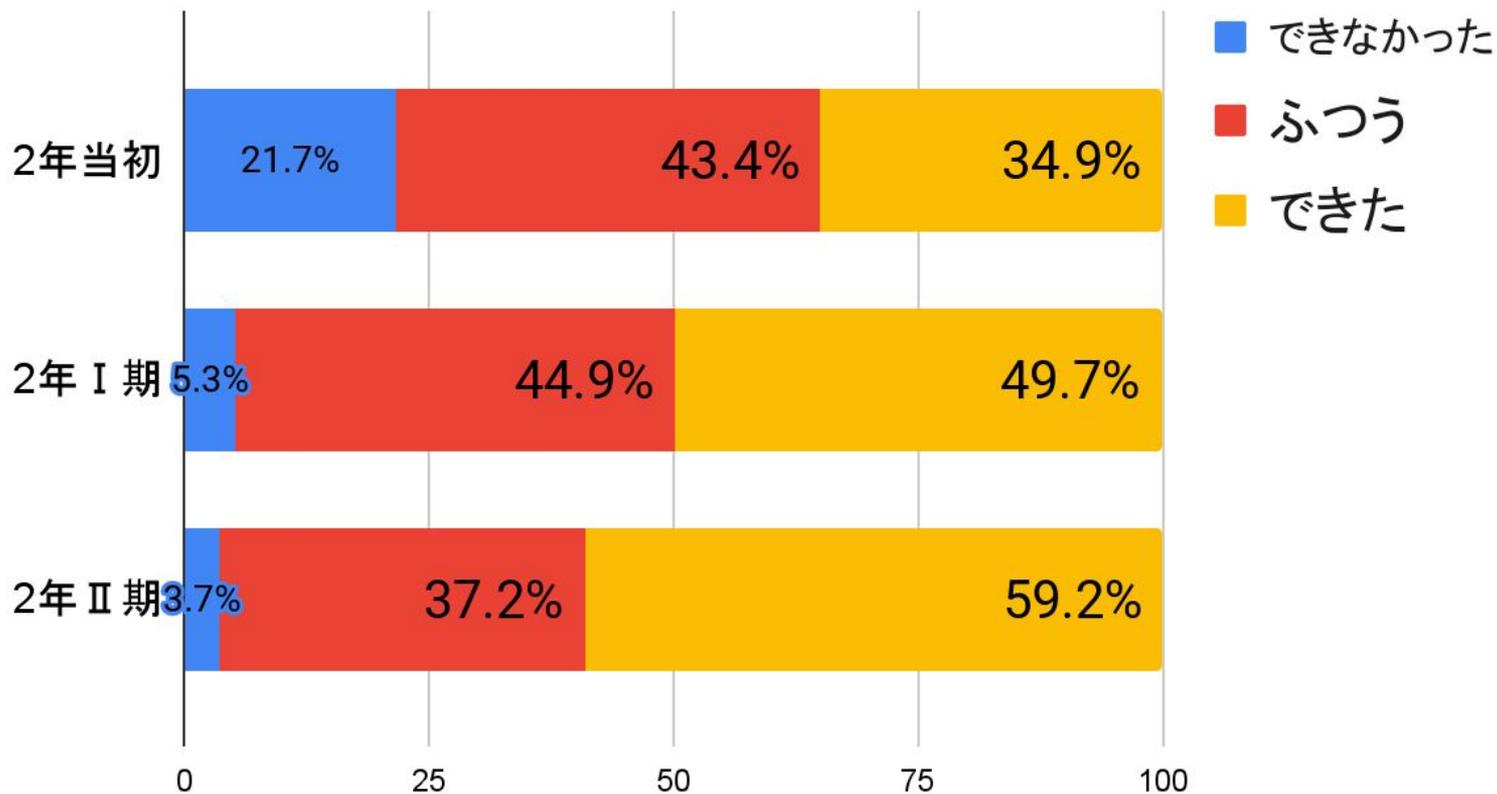
三つの資質・能力に加え、体育で身につけたい力の2年目の変化

プレゼンテーション能力



三つの資質・能力に加え、体育で身につけたい力の2年目の変化

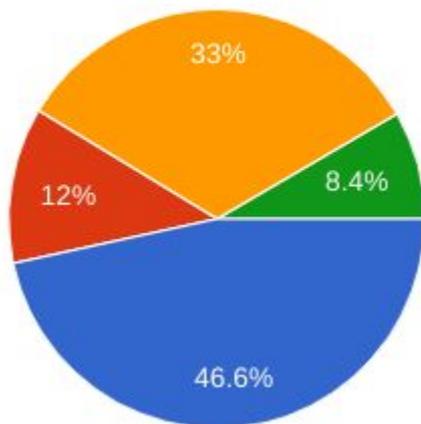
組織活性化能力



共生の知識と意識

次のうち、特に心がけて取り組めたことをひとつ選びなさい。(共生)

191 件の回答



- 全員が楽しむことができるようにする
- 体力や技能の程度（性別や障害の有無等）に対応する
- チームや個人の状況にあった実現可能な課題の設定や挑戦をする
- チームや個人の状況にあった練習の仕方やルールの修正などを大切にする

成果

- ・研究の目的を教員と生徒で共有して始めることができ、コロナの影響で計画を変更することもあったが、授業改善を進めることができた。
- ・指導と評価の計画を活用することで、これまで以上に「指導と評価の一体化」を意識した指導ができた。
- ・学習カードを集計ソフトの活用で、データを蓄積でき、授業改善に繋がった。
- ・2年目で生徒主体の活動を増やすことで、他者を意識した活動や会話が増え、男女共習の中で共生の意識を高めることができた。

保健：年間指導計画

保健（1単位）

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39
1 年次	OT	(1) 現代社会と健康																		(2) 安全な社会生活										総 括									
		(7) 健康の考え方					(1) 現代の感染症とその予防				(7) 生活習慣病などの予防と回復				(1) 喫煙，飲酒，薬物乱用と健康					(1) 精神疾患の予防と回復				(7) 安全な社会づくり					(1) 応急手当										
2 年次	OT	(3)生涯を通じる健康																		(4) 健康を支える環境づくり										総 括									
		(7) 生涯の各段階における健康										(1) 労働と健康				(7) 環境と健康				(1) 食品と健康		(7) 保健・医療制度及び地域の保健・医療機関				(1) 様々な保健活動や社会的対策		(7) 健康に関する環境づくりと社会参加											

1年目の取り組み

- ・科目保健の定期考査撤廃

 - ⇒ グループ活動の観察や発表内容、小テスト等、多様な評価方法の工夫

- ・アンケートを自動集計アプリで実施

 - ⇒ 中学校までの実態を把握し授業計画に反映

- ・多様なアウトプット場面の設定

 - ⇒ 知識伝達の授業ではなくグループワークや制作物・発表を多用

- ・学習カードを自動集計アプリやクラウド提出に代替

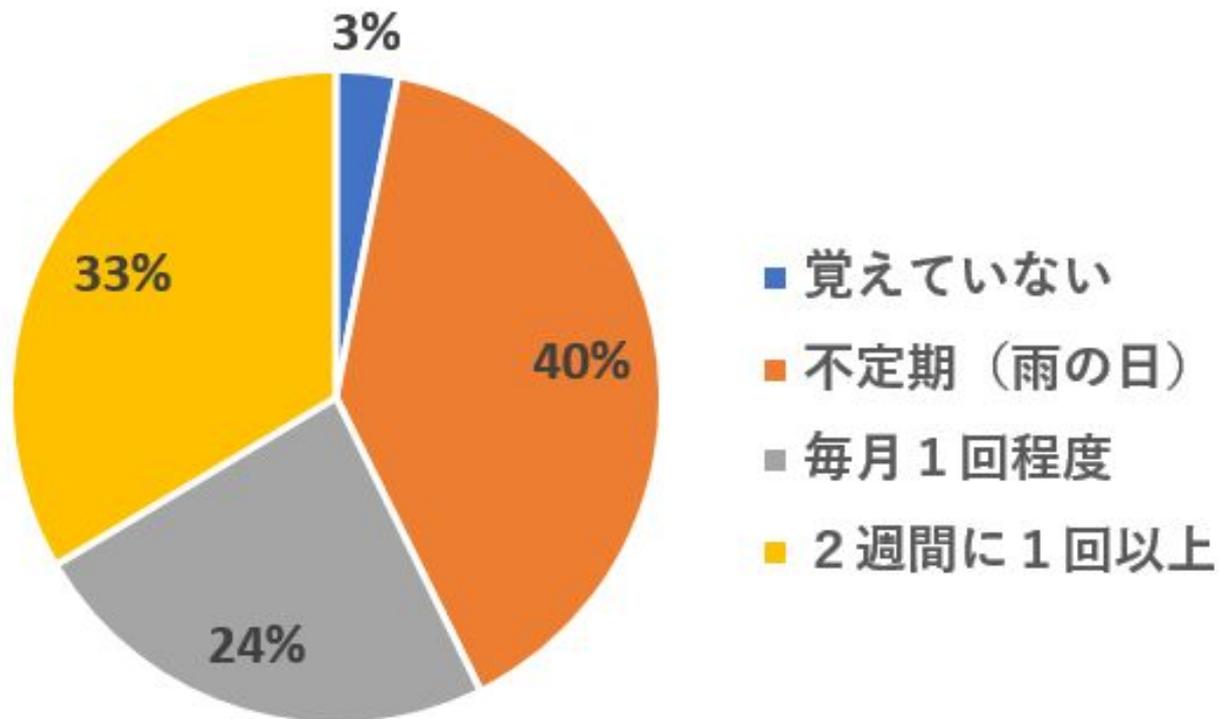
 - ⇒ いつでも共有でき、働き方改革にもつながる

- ・研究推進委員会の開催(年2回)

 - ⇒ よりよい授業改善へ

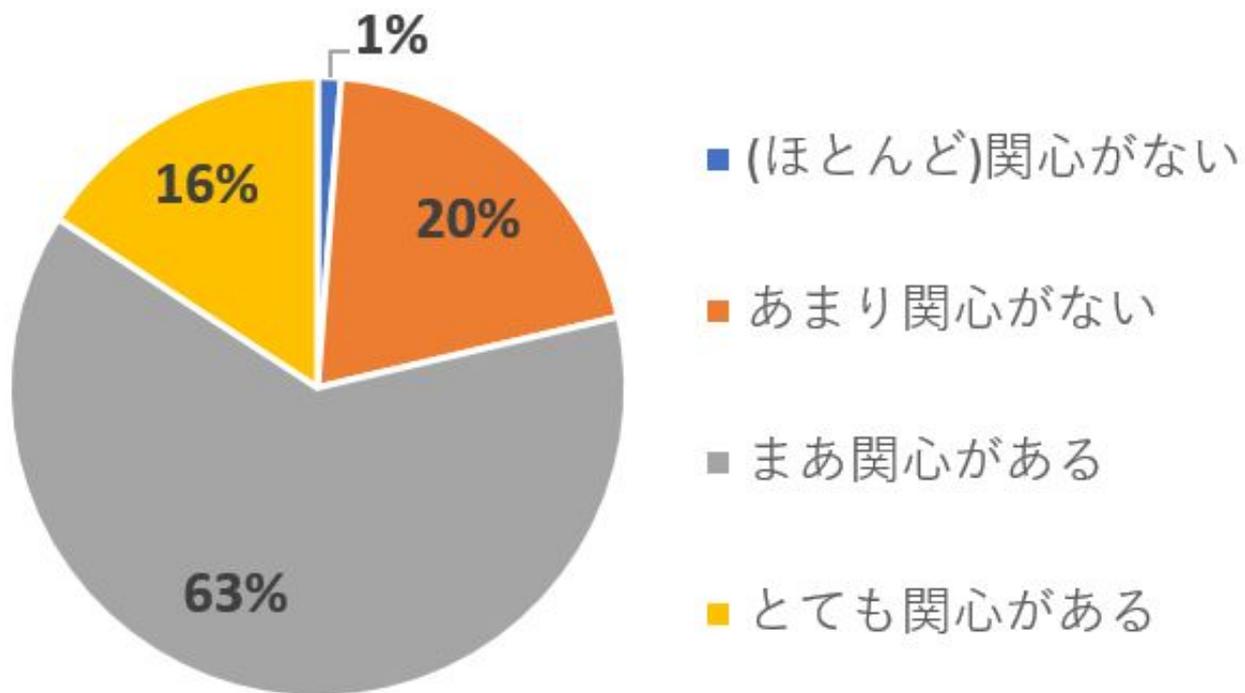
実態把握アンケート結果

1. 中学校での「保健」授業の実施具合



実態把握アンケート結果

2. 保健授業への関心度



1年目の成果

・多様な授業形態を実践

- 他者への伝え方を模索する(発表や説明に向けた主体的な取り組み)
- 他者の意見や考えを取り入れ、深い学びにつなげる

・表現する場面(対象)を細かく設定

- 設定に合う表現を模索し、最善の方法で相手に伝わる説明をする

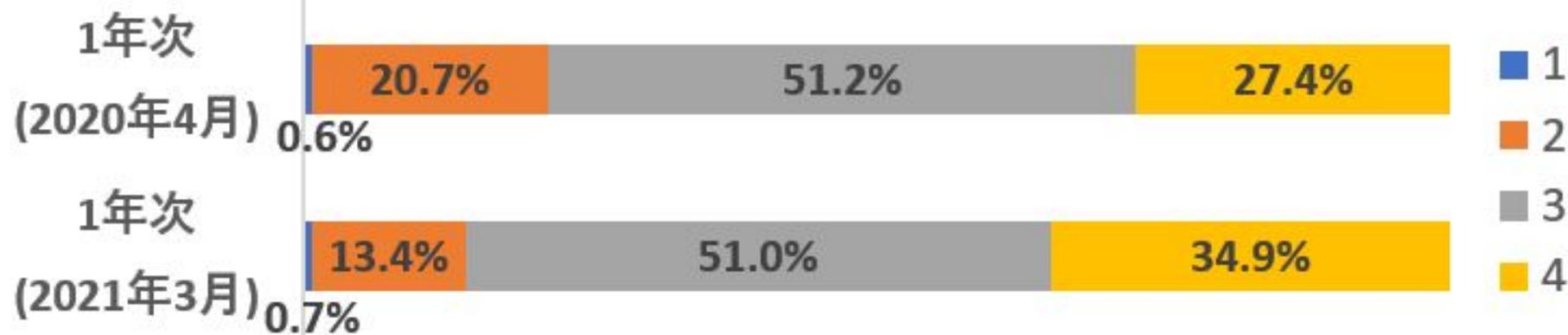
・自動集計アプリの活用

- リアルタイムでフィードバックに活用する(生きた情報となる)
- △ 活用方法のバリエーションが少ない

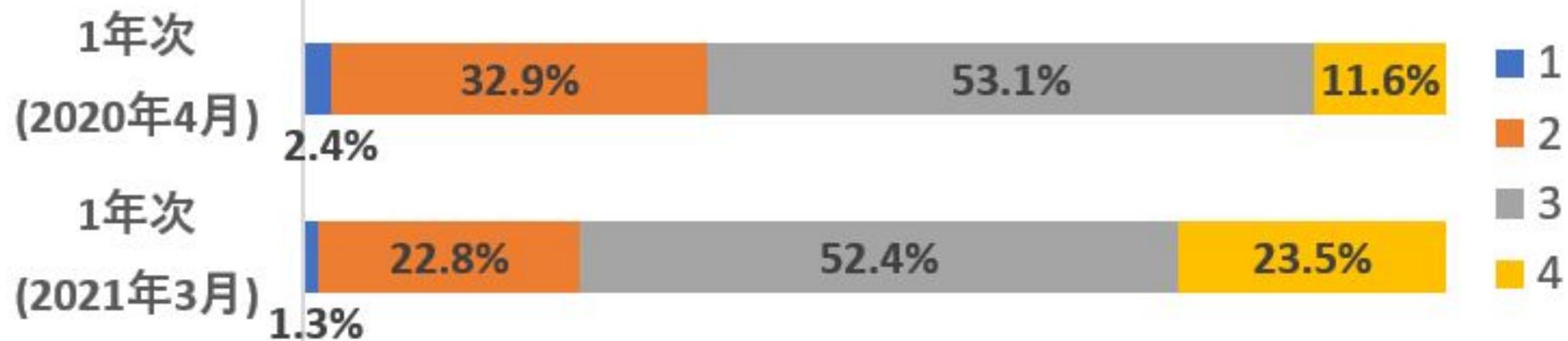
アンケート結果の推移(1年間)

ほとんどできない ← 1 2 3 4 → できる	pre : 1年次(2020年4月)					post : 1年次(2021年3月)				
質問項目	1	2	3	4	平均	1	2	3	4	平均
1.自身の健康の課題や問題点を発見できる	1.2%	14.0%	47.6%	37.2%	3.21	0.0%	3.4%	65.8%	30.9%	3.28
2.授業で習った内容を今後の生活に役立てられる	1.2%	14.6%	50.6%	33.5%	3.16	0.0%	2.0%	40.3%	57.7%	3.56
3.他者に伝えるために自身の考えを整理できる	0.6%	20.7%	51.2%	27.4%	3.05	0.7%	13.4%	51.0%	34.9%	3.20
4.自身の考えを他者にわかりやすく伝えらる	2.4%	32.9%	53.1%	11.6%	2.74	1.3%	22.8%	52.4%	23.5%	2.98
5.仲間が発表した内容や意図を理解できる	0.6%	8.5%	52.4%	38.4%	3.29	0.0%	2.0%	50.3%	47.7%	3.46
6.自身の失敗談を開示し問題解決に寄与できる	1.2%	9.2%	50.0%	39.6%	3.28	0.0%	14.8%	51.0%	34.2%	3.19
7.周囲に流されず自身の考えのもと行動できる	1.2%	14.6%	56.1%	28.1%	3.11	0.0%	14.8%	48.3%	36.9%	3.22
8.他者の考えもふまえよりよい考えを導ける	2.4%	17.7%	50.0%	29.9%	3.07	0.0%	10.7%	49.0%	40.3%	3.30

3.他者に伝えるために自身の考えを整理できる



4.自身の考えを他者にわかりやすく伝えらる



2年目の研究について

研究のポイント

◎思考力、判断力、表現力を高めるために...

- ・指導と評価の一体化

 - ⇒ 生徒と評価ポイントの共通認識を持って授業を実施

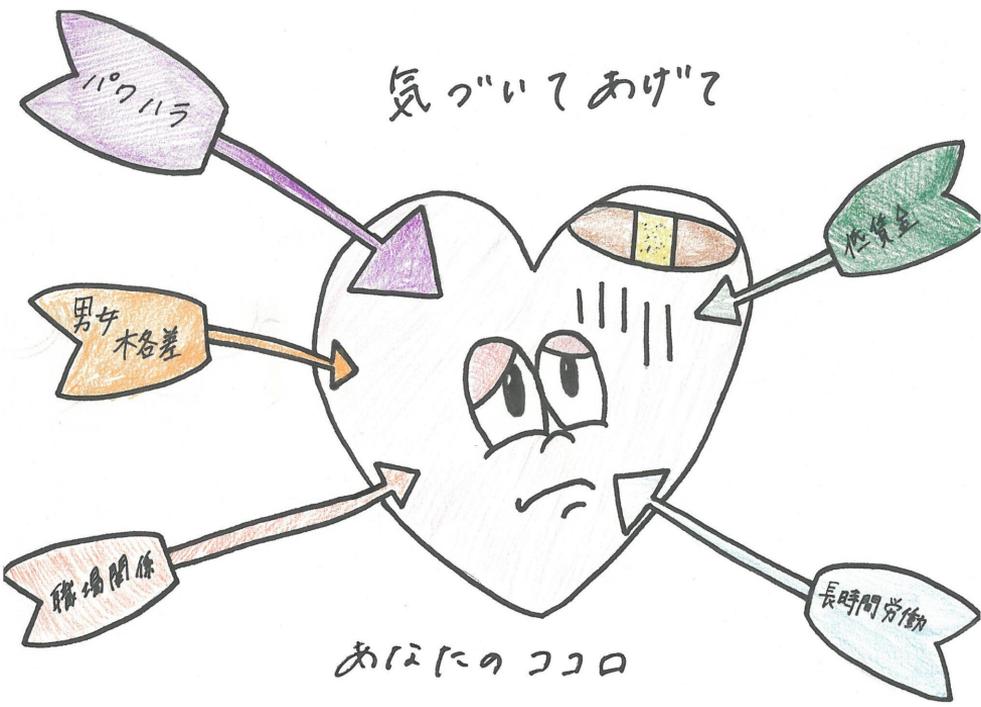
- ・相互評価における自動集計アプリの活用方法

 - ⇒ 表現したことがどれだけ相手に伝わっているか認識させる

- ・主体的で対話的な深い学びにつながる学習活動

 - ⇒ 講義形式で教員主導の授業から脱却

労働災害と健康



過労注意



知・技

- ① 労働による傷害や職業病などの労働災害は、作業形態や作業環境の変化に伴い質や量が増えたり減ったりしてきたことについて、理解したことを発言したり記述したりしている。
- ② 労働災害を防止するには、作業形態や作業環境の改善、長時間労働をはじめとする過重労働の防止を含む健康管理と安全管理が必要であることについて、理解したことを発言したり記述したりしている。
- ③ 働く人の健康の保持増進は、職場の健康管理や安全管理とともに、心身両面にわたる総合的、積極的な対策の推進が図られることで成り立つことについて、理解したことを発言したり記述したりしている。
- ④ 働く人の日常生活においては、積極的に余暇を活用するなどして生活の質の向上を図ることなどで健康の保持増進を図っていくことが重要であることについて、理解したことを発言したり記述したりしている。

思・判・表

- ① 労働と健康における事象や情報を、健康に関わる原則や概念を基に整理し、個人や社会生活と関連付けて考え、自他や社会の課題を発見している。
- ② 労働と健康における課題の解決方法を疾病等のリスクの軽減、生活の質の向上、健康を支える環境づくり等と関連付けて導き出し、筋道を立てて説明している。

態度

- ① 労働災害と健康、働く人の健康の保持増進についての学習に主体的に取り組もうとしている

時	学習内容・活動（全4時間）	評価		
		知・技	思・判・表	態度
1 本時	<ol style="list-style-type: none"> 1. 仕事について個人で考え、グループで共有し、考えを深める。 2. 労働の形について話し合い、働き方や職種、労働に関する健康問題の変化を導き出す。 3. 導き出した内容を教科書や資料のデータと照らし合わせ、これから先に起こりうる労働に関する健康問題と関連付けて考える。 	①	①	
2	<ol style="list-style-type: none"> 1. グループで労働災害の要因や背景について話し合い、労働災害防止に必要な条件や環境を考える。 2. 職場に掲示することを目的とした労働災害予防のための「ステッカー」を作成する。 	②		
3	<ol style="list-style-type: none"> 1. 作成したステッカーのポイント等を発表し、相互評価する。 2. グループで、職場・労働者それぞれの立場で、健康的な働き方やよりよい労働環境について話し合う。 	③	②	
4	<ol style="list-style-type: none"> 1. グループで職場・労働者それぞれの立場で、それぞれにとってメリットのある、新たな取り組みを考える。 2. 職場と労働者双方にとってメリットのある取り組みを導き出す。 	④		①

「十分満足できる (A)」状況と判断する生徒の姿

労働災害と健康について、習得した知識やグループで共有した考えから、労働災害の防止に向けて、自分たちが働く頃の労働と健康にまつわる問題点や課題を考え、意見をまとめていけば、「十分満足できる」状況とする。

- ・過去の労働災害に対する対策や労働災害件数の推移から、10年後を想定して課題を考え、グループの意見としてまとめている。
- ・労働災害の件数が減った業種の取り組み内容や成果を調べ、10年後も変わらず起こりそうな労働災害を考え、課題を明確に示している。
- ・近年、問題視されつつある労働に関する健康問題について意見し合い、問題点を洗い出している。

「おおむね満足できる (B)」状況と判断する生徒の姿

発言内容やグループワークのメモを記したノートから、以下のような活動状況や、方向性を見取ることができれば「おおむね満足できる」状況と判断する。

- ・具体的な根拠は示されていないが、自分たちが働くころに起こりそうな労働に関する健康問題を取り上げている。
- ・過去の労働災害に対する対策や労働災害件数の推移から、問題点や課題を見つけようとしている。
- ・自分の就きたい業種に関する労働災害を調べ、問題点や課題を見つけようとしている。

「努力を要する (C)」状況と判断する生徒への手立て

・配布した労働災害の推移に関する資料から読み取れる傾向を伝え、変化してきている要因や理由を考えさせる。

・怪我や病気の種類や症状の差はあるかもしれないが、労働災害には変わらないことを再認識させ、最近のニュースや時事問題などから、労働災害に関わるものがないか考えさせる。

研究の実践

・アウトプット場面の設定

⇒ 職場に掲載する注意喚起のためのステッカーと設定

・生徒が自ら課題を発見・設定する授業

⇒ 職種ごとの労働災害の件数や割合、正規・非正規雇用者数の推移などの資料から読み取り、班ごとに課題を設定

・教師主導の講義形式の時間を極力なくし生徒主体の時間を増やす

⇒ 講義形式の時間を10分程度(授業時間の4分の1)まで

・自動集計アプリの有効活用

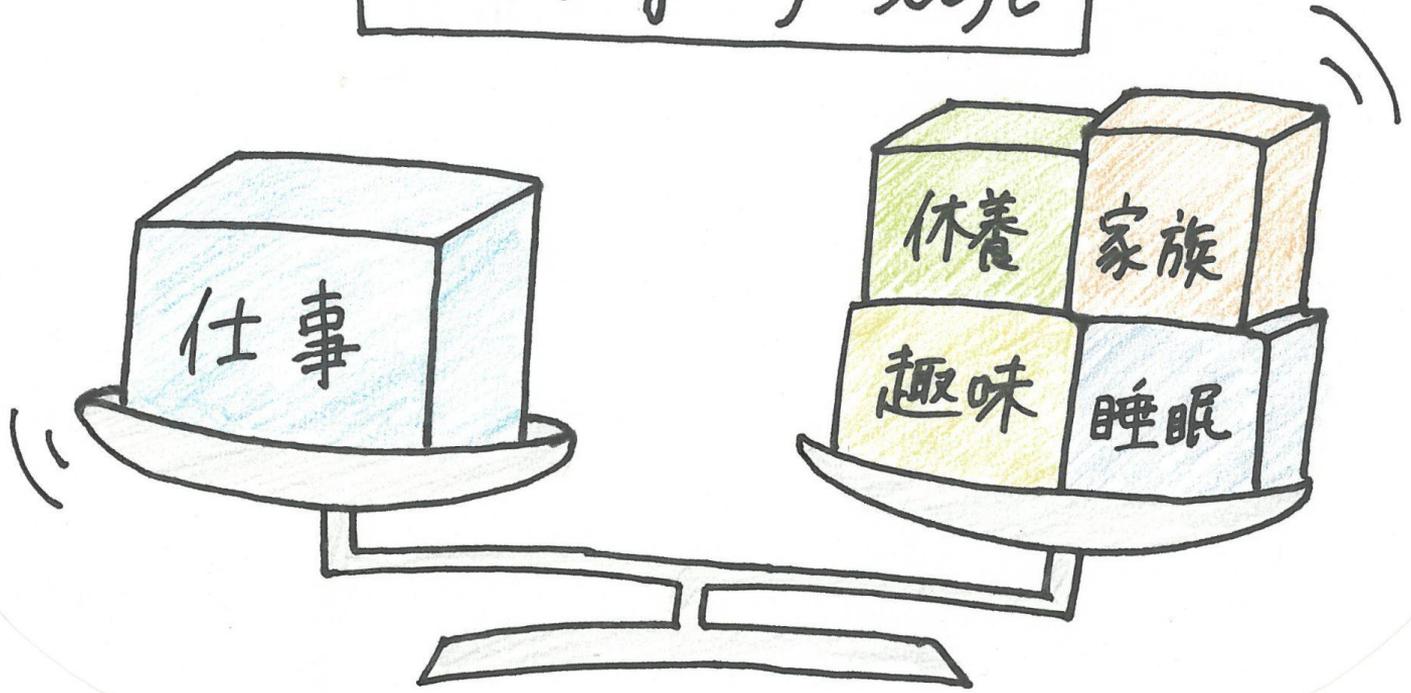
⇒ 知識を授業時間外で評価

授業風景



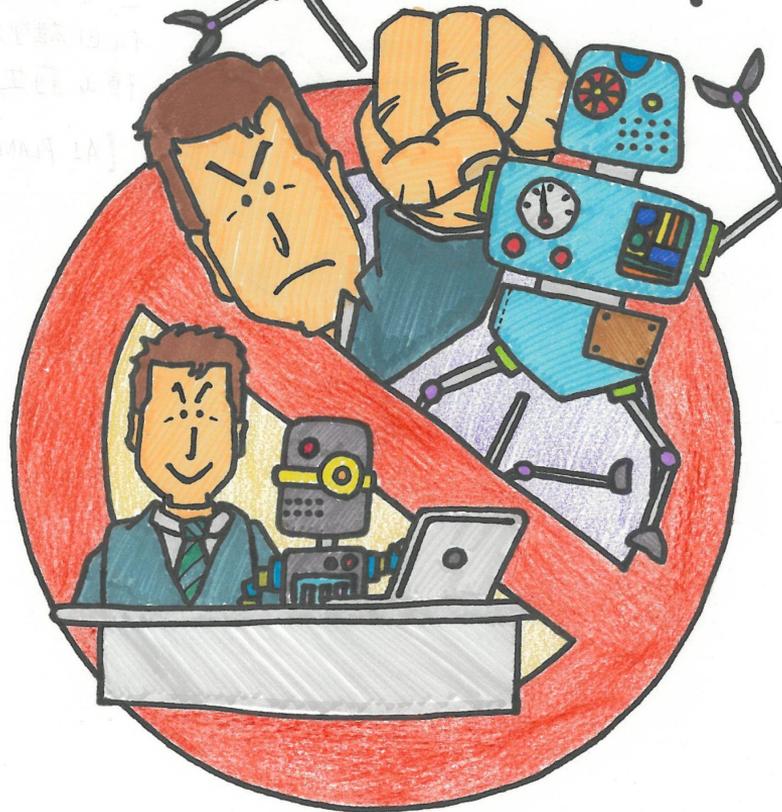
ワークライフバランスを大切に!

Quality of life

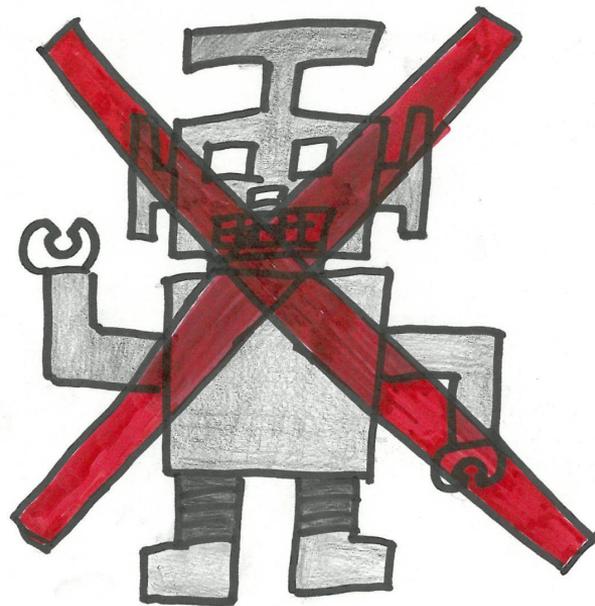


違った世界観

どちらを選ぶ？



AIに負けるな!!!



成果

- ・教師主導で話す時間が減り、生徒主体で活動する授業時間が非常に増えた。
- ・生徒で課題を発見し課題を克服するための方法を模索できるようになった。
- ・自身の考えを、理由も含めて自信を持って主張できるようになった。
- ・テストを実施しないため、単語や政策を覚えることよりも既存の知識や学んだ ことを活用・応用することへ生徒の取り組み方をシフトした。
- ・どの生徒でも、何らかの方法で自分の意見を伝えることができるようになった。

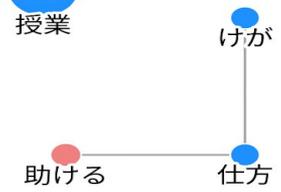
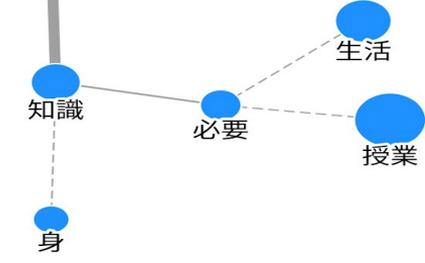
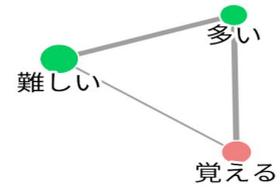
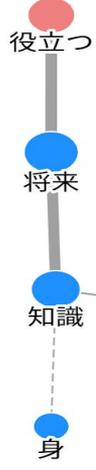
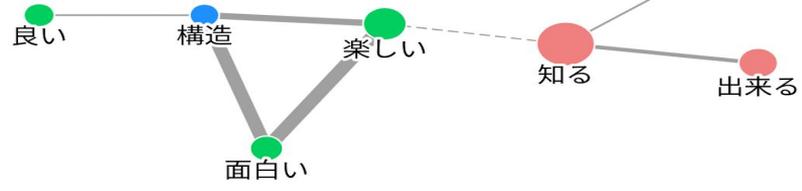
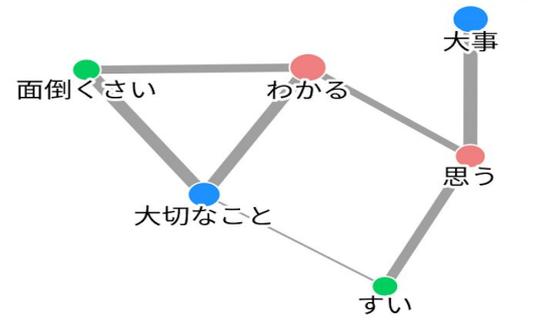
教える 深い できる 身 いい 助ける
面倒くさい 日常 たばこ 体育 病気 関わる
ケガ 学習 将来 役に立つ 覚える
すい 怪我 知る 必要 方法 生活 知識 学べる 学ぶ 今後
保つ けが 知識 健康 役立つ 大切 考える
思う 生活 面白い 難しい 役立てる 健康 役立つ 教科 詳しい
日常生活 習う 勉強 仕方 授業 対処法 わかる
楽しい ゆるい たくわえる 害 イメージ
多い 構造 大切なこと パワーポイント 大事
出来る いく 身体 生きる 柔らかい
知れる 良い 保健イメージ

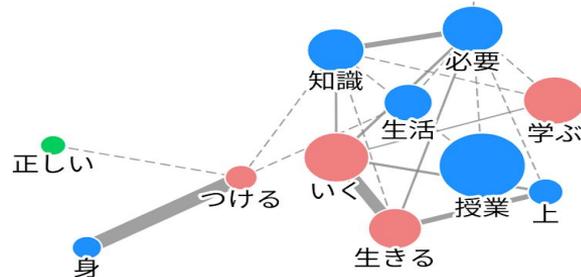
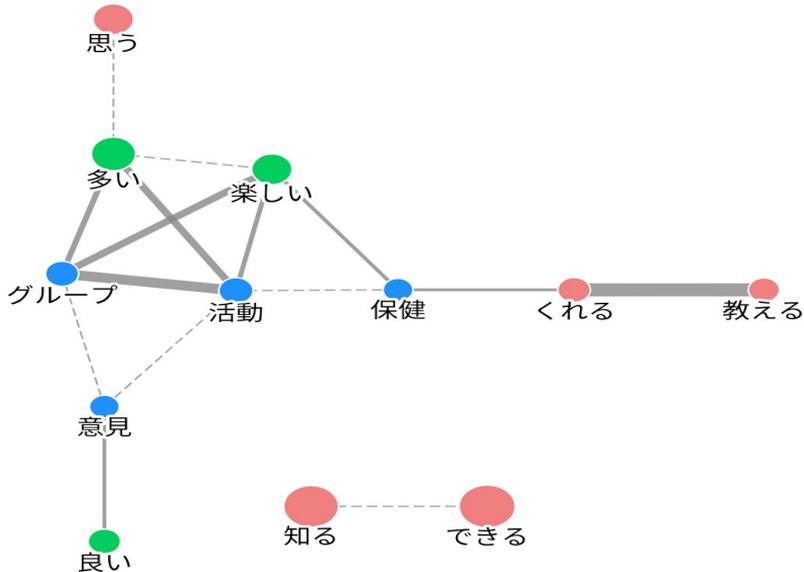
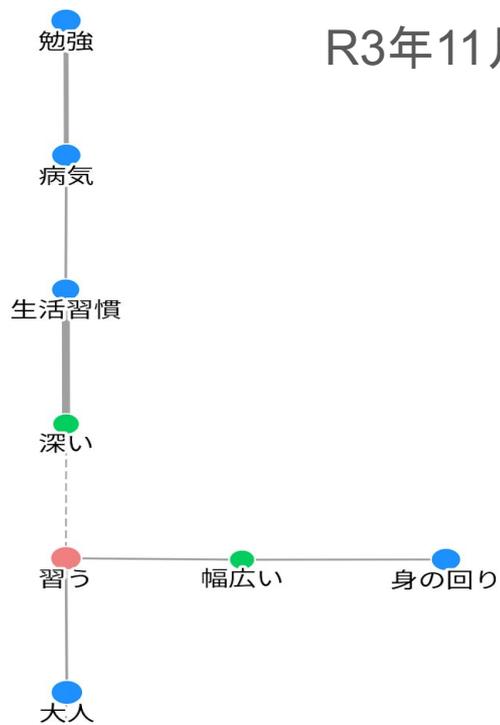
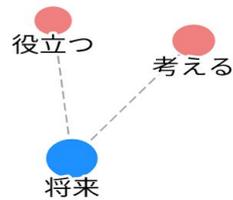
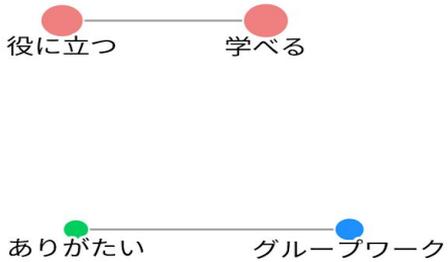
送る 身体 少ない 強い
ありがたい 関わる 考える イメージ 人生 いい うまい
怪我 活動 身の回り 知る 幅広い
詳しい 他者 安全 知れる 大切 健康 大人 楽しい
くれる 守る 生活 必要 できる 教科 学べる 学ぶ つける
生活習慣 知識 役に立つ 授業 受ける
悪い 生きる 良い 上 保健 今後
細かい 意見 事故 役立つ 習う いく 将来 社会 身 思う 出来る
正しい 内容 面白い グループワーク 自分たち 教える 恐ろしい
いける 勉強 病気 多い 深い 日常生活 新しい

保健イメージ

2021年11月(2年次)

R2年4月

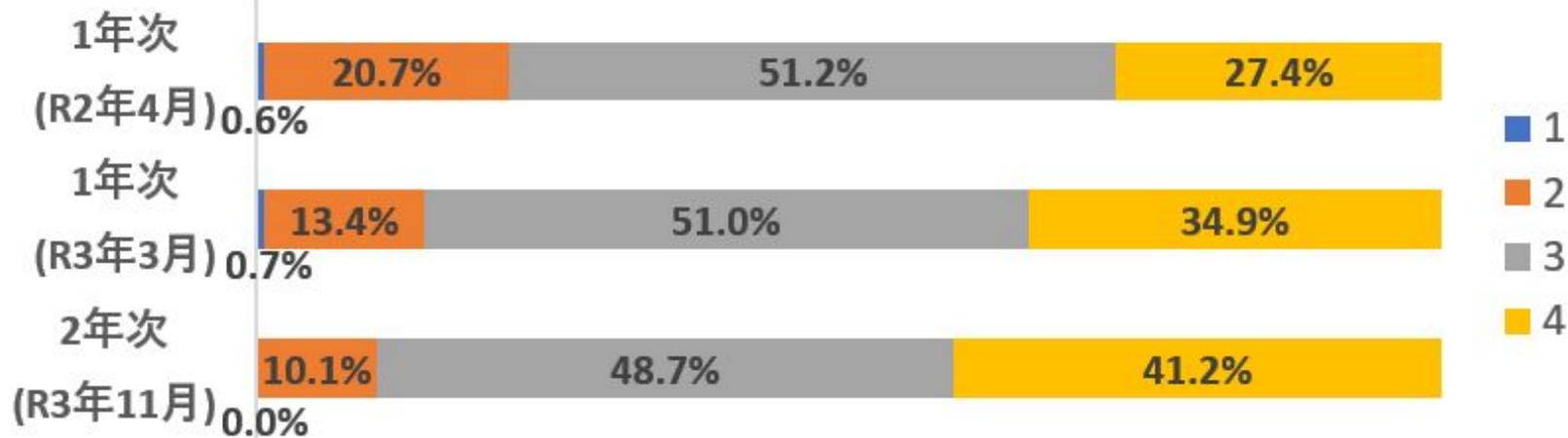




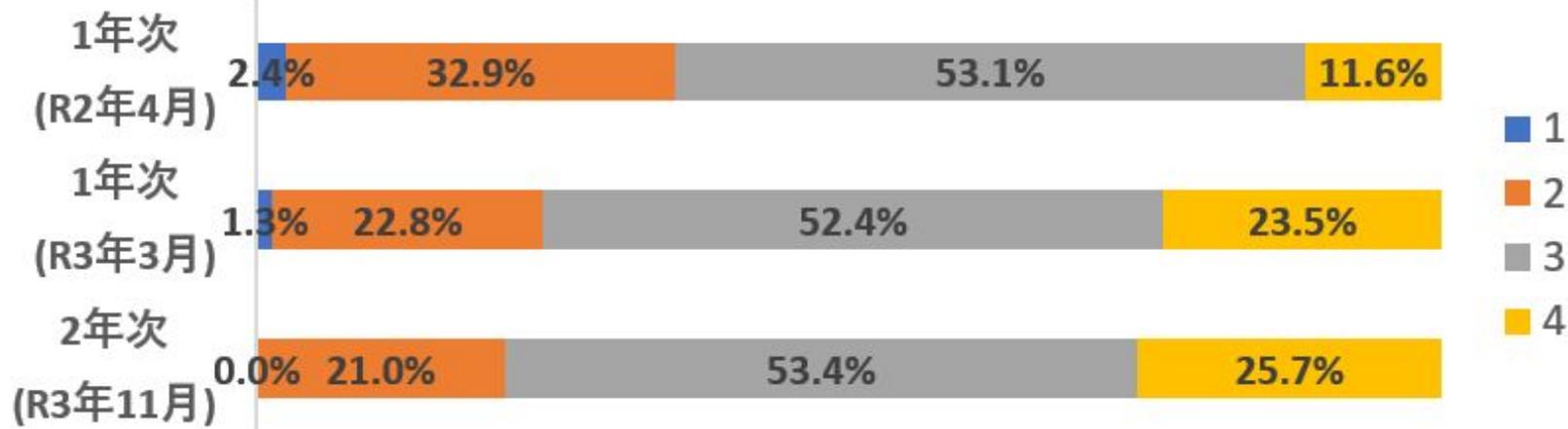
アンケート結果の推移(2年間)

ほとんどできない ← 1 2 3 4 → できる	pre : 1年次(2020年4月)					post : 2年次(2021年11月)				
質問項目	1	2	3	4	平均	1	2	3	4	平均
1.自身の健康の課題や問題点を発見できる	1.2%	14.0%	47.6%	37.2%	3.21	0.0%	3.4%	43.9%	52.7%	3.49
2.授業で習った内容を今後の生活に役立てられる	1.2%	14.6%	50.6%	33.5%	3.17	0.7%	2.7%	35.1%	61.5%	3.57
3.他者に伝えるために自身の考えを整理できる	0.6%	20.7%	51.2%	27.4%	3.06	0.0%	10.1%	48.7%	41.2%	3.31
4.自身の考えを他者にわかりやすく伝えらる	2.4%	32.9%	53.1%	11.6%	2.74	0.0%	21.0%	53.4%	25.7%	3.05
5.仲間が発表した内容や意図を理解できる	0.6%	8.5%	52.4%	38.4%	3.29	0.0%	3.4%	39.9%	56.8%	3.53
6.自身の失敗談を開示し問題解決に寄与できる	1.2%	9.2%	50.0%	39.6%	3.28	1.4%	11.5%	42.6%	44.6%	3.30
7.周囲に流されず自身の考えのもと行動できる	1.2%	14.6%	56.1%	28.1%	3.11	0.7%	11.5%	43.9%	43.9%	3.31
8.他者の考えもふまえよりよい考えを導ける	2.4%	17.7%	50.0%	29.9%	3.07	0.0%	9.5%	55.4%	35.1%	3.26

3.他者に伝えるために自身の考えを整理できる



4.自身の考えを他者にわかりやすく伝えらる



体育・保健 今後の課題と取り組み

- ・全県への公開授業と研究成果の発表を行い、他校での活用に寄与する
- ・他教科との観点別評価の共有とICTを活用した授業改善を校内で定着させる。
- ・体育科の授業へ発展させ、指導と評価の計画を定着させる。